

「2022 年度版 日本語教育の樹形図」 —その紹介と活用方法—

公益社団法人日本語教育学会の調査研究推進委員会は「2022 年度版日本語教育の樹形図」を作成しました。このリーフレットでは、この樹形図を示すとともに、その作成意図、手順と活用方法のアイデアをご紹介します。

1. 樹形図とワールドカフェ

樹形図の作成と活用に関しては、「公益社団法人日本語教育学会理念体系—使命・学会像・全体目標・2015-2019 年度事業計画」において、日本語教育の研究・実践領域全体の俯瞰的輪郭イメージを示すためのものとして提示されました。

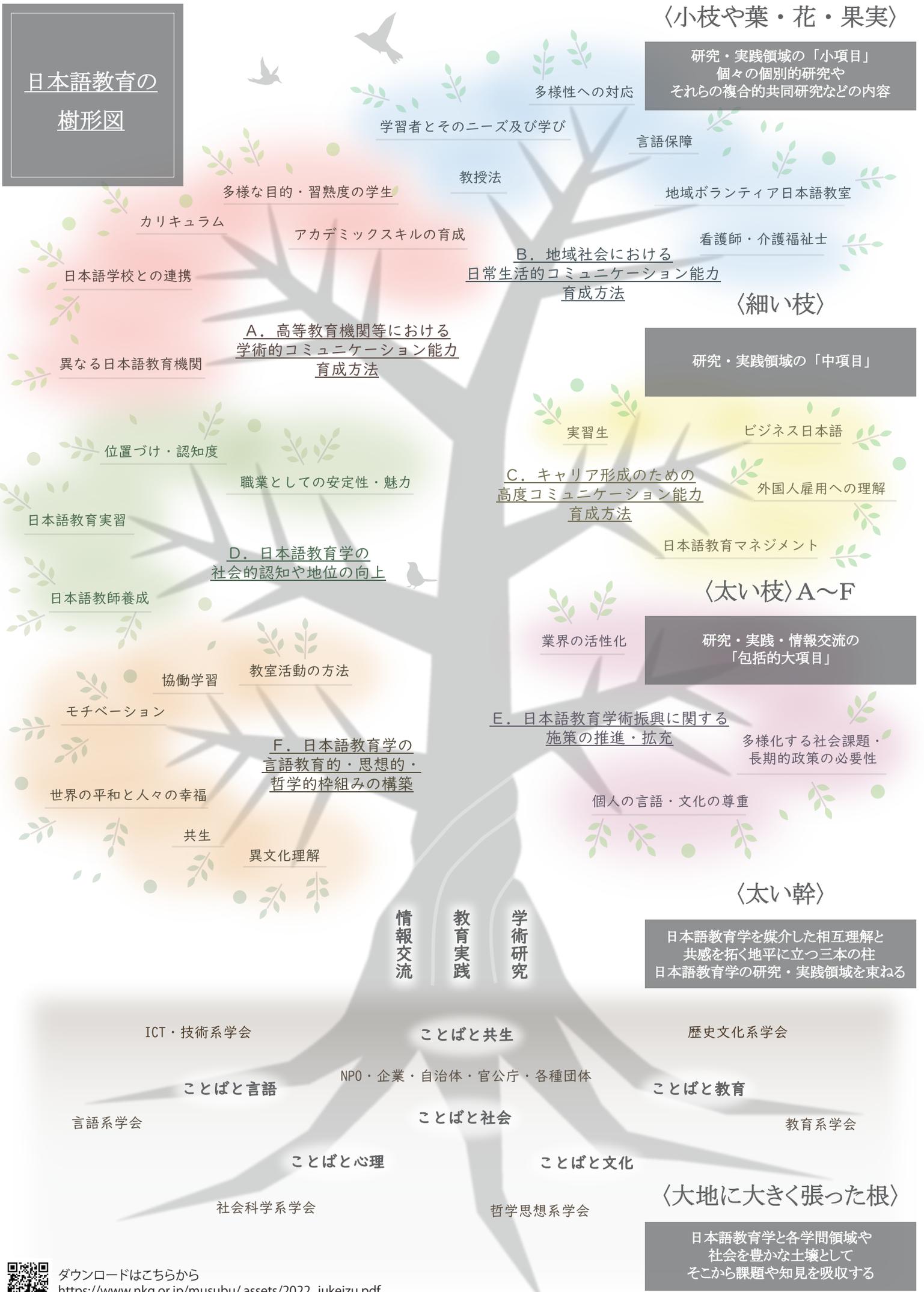
樹形図には、大地に大きく張った根、太い幹、太い枝、細い枝、小枝や葉・花・果実の5つが描かれています。根を大きく張った大地は「日本語教育学と各学問領域や社会」を、太い幹は、日本語教育学の研究・実践領域を束ねる「学術研究・教育実践・情報交流」を表しています。太い枝は、学術研究・教育実践・情報交流の「包括的大項目」（学会として設定する「研究課題」）、細い枝は、学術研究・実践領域の「中項目」を、小枝や葉・花・果実は、学術研究・実践領域の「小項目」を表しています。

日本語教育関連活動の輪郭を描くための資料を集めることを目的の一つとして開催されたのがワールドカフェです。ワールドカフェは、2017年から2021年までに4回開催され、樹形図はツールとして活用されてきました。参加者は「島」と呼ばれるグループに分かれ、島を移動しつつ、設定されたテーマに沿って話し合いをしました。2017年と2018年のワールドカフェでは、付箋に書いたキーワードや文を樹形図の中に位置づけていく活動をしました。調査研究推進委員会では、参加者がこのようにして位置づけた自らの実践とその研究に関するテーマや課題、活動を記録として残し、樹形図に書き入れ、その時点での樹形図として公開してきました。

2. 「2022 年度版日本語教育の樹形図」の作成

「2022 年度版日本語教育の樹形図」作成の目的は、ワールドカフェで収集された記述を要約し、系統的に示すことです。これまでに公開された樹形図では、参加者個々の研究テーマ・領域・実践的活動について、小枝や葉・花・果実と太い枝は示されていましたが、その中間となる細い枝がありませんでした。そこで、小枝や葉・花・果実を細い枝に束ね、それらを太い枝へと束ねる作業を行いました。太い枝には、学会理念体系の例示にある「A. 高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力の育成方法」「B. 地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法」「C. キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法」「D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上」「E. 日本語教育学振興に関する施策の推進・拡充」「F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築」の6つの項目を用いました。対象とする小枝や葉・花・果実は、その大半を占める2017年と2018年のワールドカフェの記述をもとにしました。

作業の手順としては、まず、小枝や葉・花・果実を整理するため、ワールドカフェの島と太い枝との関連性を整理し、島の特徴や話題に基づいた分類をしました。続いて、細い枝に束ねる作業として、テキストマイニング及びクラスター分析を実施し、クラスターの解釈と命名をしました。最後に、太い枝に束ねる作業として、クラスターと太い枝の関連性の検討をし、樹形図に書き込みました。樹形図には大地に大きく張った根、太い幹、太い枝と一部の細い枝を記し、その他は別途[リスト](#)にまとめました。



4. 太い枝と細い枝のリスト

「2022年度版日本語教育の樹形図」には、イラストを見やすくし、ツールとして活用しやすくするため、文字は大地に大きく張った根、太い幹、A～Fの太い枝と細い枝の一部のみを記載しています。太い枝とすべての細い枝及びこれまでのワールドカフェで収集された小枝・葉・花・果実は、別途[リスト](#)にまとめました。以下は、A～Fの太い枝の項目と、それぞれの細い枝をまとめた簡易版のリストです。

A. 高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力育成方法
日本語教育機関に在籍する多様な目的・習熟度の学生に対する日本語教育／日本語教育機関で教育すべき内容（日本語以外も含まれる）／大学院留学生に対する研究指導／どのようなコミュニケーション能力を育成すべきか／異なる日本語教育機関間、地域、異分野との連携／多文化社会における異文化適応力／多様な職場に即した就労のための日本語指導／学習者個人に適した学習ストラテジー使用／日本語学校と他機関との連携／カリキュラムの見直し／アカデミックスキルの育成／人材・支援の不足／日本語教員の学びの機会／日本語教育機関における評価の方法
B. 地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法
地域ボランティア日本語教室とその役割／留学生とその家族の生活日本語／学習者とそのニーズ及び学び／地域日本語教室における教授法／ボランティア日本語教師及び専門日本語教師／コミュニケーション・ストラテジー及び能力の育成／多様性への対応／短期留学生のための集中日本語コース／地域に住む外国人と日本人との伝え合いの必要性／EPA 看護師・介護福祉士の家族への援助／異文化間コミュニケーション能力を測る基準／言語保障／多人数教室での創造的活動／海外に在留する児童生徒への教科書の無償給与
C. キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法
外国人への教育及び外国人雇用への理解／職場での異文化理解／ビジネス日本語とその応用／諸分野における研究と実践／会話を中心としたコミュニケーション能力／発音指導及び学習／日本語教育マネジメントの実施と共有／実習生の受け入れと対応／ブリッジ人材／上達を必要としない学習者／日本で仕事をすることの意味
D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上
日本語教員養成課程における受講生の多様化と日本語教育学を学ぶ意義／日本語教員の役割の変化と教員養成・研修／日本語教育実習のあり方や方法／日本語教師の職業としての安定性・魅力／日本語教育の位置づけ・認知度／日本語教師養成とその課題
E. 日本語教育学術振興に関する施策の推進・拡充
多様化する社会課題に対する長期的政策の必要性／個人の言語・文化を尊重した日本語教育／業界の活性化とは／日本語教師としての専門性
F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築
学習者間、学習者と教員間、教員間の協働学習と協働／異文化理解・相互理解／教室内の支援・活動の方法／教育手法（アクティブラーニング・Eラーニング）／モチベーションアップ・維持／多様な学習者・学習目的／学習者に対するサポート／自律学習／教室手法、教育環境の意義／異文化理解と共生／異分野との協働／日本語教育によって、世界の平和と人々の幸福に貢献する

5. 「2022 年度版日本語教育の樹形図」の活用アイデア

「2022 年度日本語教育の樹形図」の具体的な活用アイデアを以下に示します。より詳細な内容は[報告書](#)をご覧ください。

① ワークショップ等のツールとして活用

参加者の考える「テーマ」「課題」「領域」など多様な考え方・実践のあり方に触れつつ、お互いの考え方や実践活動相互の関連性・親近性の網の目状の広がりを考えるためのブレインストーミングのツールとして活用できます。自己の実践や研究について話し合いながら、付箋にキーワードを書き、それを樹形図の中に位置づけていきます。これにより、新たな気づきや視点を得ることができます。

② 大学学部生・大学院生が研究テーマを考えるためのツールとして活用

日本語教育関連で研究活動を始めようとしている大学学部生や大学院生が、広い視野を持って研究テーマを考えるためのツールとして活用できます。大学学部や大学院のゼミナール等において、研究テーマのブレインストーミングや絞り込みをするために使用することで、自己の関心が樹形図のどこに位置づけられるのを知り、現場における実践者や研究者の幅広い視点に触れることができます。

③ 日本語教育を紹介するためのツールとして活用

日本語教育の実践現場、日本語教育に含まれるもの、実践者の関心事や問題意識、日本語教育分野の研究等、日本語教育全般を紹介するツールとして活用できます。日本語教育の主専攻や副専攻を持つ大学や大学院、日本語教育養成講座を開講する専門学校の進学説明会等で、日本語教育人材となることを将来の選択肢として考えている人に、日本語教育人材の幅広い活躍の場を示すことができます。

④ 他分野の実践者・研究者が日本語教育との関連を考えるためのツールとして活用

文学、法学、社会学等、他分野の実践者や研究者が自己の専門分野と日本語教育の接点を考えるツールとして活用できます。日本語教育に関心、接点を持つ他分野の実践者や研究者が、樹形図全体を眺めることで、自己の専門分野と関連がありそうな箇所を見つけることが可能となります。他分野のワークショップ等で、日本語教育との接点を考えるためのツールとして使用することもできます。

⑤ ボランティア教室での学習目的等を確認するためのツールとして活用

ボランティア教室の教員や参加者が、必要とする知識やスキル、学習の目的などを確認するためのツールとして活用できます。授業で樹形図全体の内容を見て、教室でやっているのは樹のどの部分にあたるのかを考え、話し合うことで、自分たちの現在の位置づけと今後の目標を明確に認識できるようになります。リストを見ることにより、具体的な教授法、学習法等の幅広い知識も得られます。

以上、「2022 年度版日本語教育の樹形図」を提示し、その作成意図、作成方法、活用アイデア等を説明しました。この樹形図をご理解いただき、広く活用していただければ幸いです。

なお、このリーフレットは「ワールドカフェの開催と「2022 年度日本語教育の樹形図」作成について—ツールとしての活用に向けて—」のダイジェスト版です。詳細は[報告書](#)をご参照ください。